

千代田せいが通信

2024.11.1 千代田せいが保育園
NO. 8 (第6巻通巻68号)

巻頭言 11月号

園長 倉掛秀人

「もう一回やりたい！」が探究です」(青木尚哉)

先週の「親子運動遊びの会」についてのアンケートを昨日、遅ればせながら、お願いさせてもらいました。よろしくお願ひします。月曜日にすでに何人かの方からは楽しい感想をお寄せいただいていたので、ここで、ちょっと紹介します。

「まだ恥ずかしくてあまり参加はしなかった〇〇〇。実は帰宅後、太鼓を叩きながらラップを吹くという二刀流で演奏がはじまり、『ママ～青木さんのダンス踊って～』と言って自分は坪井先生になりきっていました！！かなりの無茶振りでしたが、その音楽に合わせて〇〇〇と一緒に青木さんのダンスを踊る母でした。参加しなかったと勝手に思い込んでいましたが、〇〇〇は、誰よりもこの運動遊びの会を楽しんで観察していたようです！」

その姿が目には浮かぶようです。坪井先生がハーモニカを吹きながらギターを演奏し、とにより菅田さんがカホンを叩いていたので、その「二刀流」ということですね。ハーモニカがないから代わりにラップですよね。よく見て楽しんでいたんですね。家でダンスが再現されたというのは嬉しいエピソードですね。

実は今日、先週の「親子運動遊びの会」に関して、ダンサーの青木尚哉さんを交えて職員で反省会を開きました。そこでU先生が次のような話をしてくれました。

<・・・青木さんがおっしゃっていた、子どもにとっての探究とは、「もう一回やりたい！」が無意識的に沸き上がってくるものだという言葉が心に残っており、この視点と出会ったことで、探究の幅が広がったように思います。こどもたちが、「もう一回！」とか「思わず体が動いてしまう」といった、楽しい雰囲気がとても大切なのだなと気づきました。>

このように子どもの姿を捉えたら、子どもは世界の探究者だって思えてきます。それが例えじゃなくて、本当にそうだ！って、思えてくるので、私たち大人もワクワクしていきます。こうやって子どもたちから大事なことを教わっているように感じてきます。

今回はプレイエリアと客席をできるだけ分けないようにして、体育館全体がダンスホールです！とやってみたのですが、参加の仕方もそれぞれで構わないようにしました。でも青木さんは「アート性の高い空間になったと思う」とおっしゃっています。みなさんの身体も子どもと一緒に喜んでくれたとしたら、それは嬉しい限りです。

〈内容〉

巻頭言／職員室だより／保健だより／献立表 (他はHPのブログで)